

チャバネアオカメムシモニタリングのための 新型乾式トラップ

チャバネアオカメムシはスギやヒノキなどの針葉樹の実（球果）を餌に幼虫が成長し、羽化後に球果が劣化したり枯渇すると針葉樹林を離脱し、その一部が果樹園に飛来し果実を加害します。果樹園への飛来のタイミングや量は、年や地域によって大きく異なるため防除のタイミングの予測が難しい害虫です。従来よりモニタリングには予察灯や水盤式のフェロモントラップが用いられていますが、電源の設置や水の補給をする必要があり広域に多数設置することは不可能でした。そこで、果樹園への飛来をより広範囲で正確に予測するための新たなモニタリング技術として、農研機構果樹研究所と千葉県農業総合研究センター（現、農林総合研究センター）では電源や水が必要ない新型乾式トラップを共同開発しました。

☆ 技術の概要

1. トラップは飛来したカメムシが取り付くスカート部、カメムシが自力で歩行移動する導入部、移動したカメムシをためておく捕虫部の3部分から構成される組み立て式です。大きさは底面の一辺 28cm、高さ 50cm の四角錐型です。誘引源としてチャバネアオカメムシ合成集合フェロモンルアーをスカート部に取り付けます（図）。
2. 従来の水盤型と比較してトラップ当たりの平均捕獲数はやや少なくなりますが捕獲消長は同調するので、発生初期の消長の変化など両者はほぼ同等の感度でカメムシの発生動向を検出できます。
3. 電源や水の補給が不要な組み立て式の軽量のトラップなので、地域全体など広域に多数設置できます。

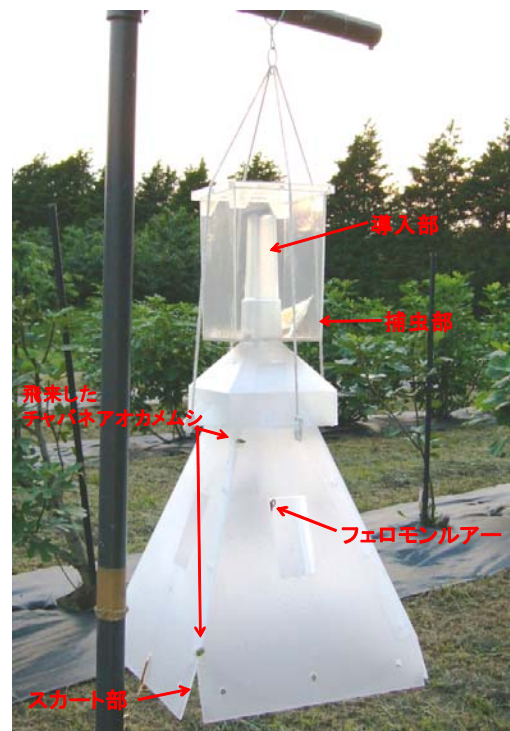


図 新型乾式トラップの設置状況

☆ 活用面での留意点

1. 新型乾式トラップは「AUトラップ」として2010年から市販されています。
2. トラップを吊り下げるための支柱等が必要です。
3. 誘引源のフェロモンルアーは約1ヶ月ごとに交換します。誘殺状況により複数本取り付けることも可能です。
4. チャバネアオカメムシの他、ツヤアオカメムシやクサギカメムシも捕獲されます。
5. 発生源の山林等を含め広域に多数設置してカメムシの移動行動を面的に把握することで、より正確なカメムシのモニタリングシステムの構築が可能になります。
6. 詳細については、農研機構・果樹研究所・果樹害虫研究チーム（TEL：029-838-6550、電子メール：xx145112@naro.affrc.go.jp）にお問合せください。

（果樹研究所 果樹害虫研究チーム 主任研究員 三代浩二）